

慢性呼吸不全患者のリスクマネジメント ―緊急対応状況から―

(財)日本訪問看護振興財団立刀根山訪問看護ステーション

○長濱あかし 澤山恵美 安川俊子 織田篤志 芳賀理絵 前川多佳峰
田岡徳子 尾崎君代 木原淑子 坂本照代 服鳥景子 松浦素子 脇阪靖美

1. 研究の背景

当ステーションは在宅酸素療法（以下HOT）在宅人工呼吸療法の利用者が多いことが特徴である。平成5年からの「HOT患者の生活実態調査」で、HOT患者の在宅療養の問題として 指示通りの酸素吸入がされていない。病状悪化時の受診時期がわからない。相談場所がない。酸素機器導入時期の指導が不十分である。独居者や高齢介護者など、介護力問題がある。浴室やトイレなどの居住環境が十分に整備されていない。が明らかとなった。訪問看護師の指導により、酸素機器の使用は医師の指示通りに行えるようになり、介護保険や支援費制度の利用により、療養者の介護面や居住環境も改善されている。しかし、病状の悪化時の対応は、訪問回数がさまざまな状況下では、定期的な訪問時に早期発見することは困難である。訪問看護ステーションが利用者の「安全と安心」に対応ができていないか、緊急時連絡体制や24時間緊急対応体制への連絡内容を検討した。

2. 研究方法

平成15年8月から平成16年8月までの1年間の緊急連絡内容を確認した。

内容を呼吸器疾患患者とその他に分類し、呼吸器疾患に関して、訪問対応か電話指導か 病状に関することか機器に関することか 対応の結果 に分類した。

3. 結果

緊急連絡件数は201件、その内呼吸器疾患患者：118件、訪問対応は45件で、病状に関する内容が32件、機器に関することが2件であった。電話対応は73件、病状に関する内容が49件であった。入院が10件で、電話での対応でも入院に結びついている。相談内容は1位：呼吸困難、2位：発熱、3位：風邪症状であった。病状の変化による訪問対応のうち14件は独居者であった。

4. 考察

HOT患者への訪問看護の主な役割は、病状悪化の予防と異常の早期発見・対応 日常生活上での問題の有無確認と対応である。

緊急対応の内容を見ると、慢性呼吸不全患者の場合

病状悪化は急峻であることが再認識された。早期に発見・対応をしたつもりでも、肺炎で死亡という結果をみると、平常の利用者の状況からの変化をいかに見つけるか、さらに見つけた状況を的確に判断し、指示医への報告や本人・家族への説明・対応できる能力が訪問看護師に求められる。また、独居者の場合は、不安も強く電話対応でなく訪問対応をすることで、安心への対応がされていると考える。

5. 結語

慢性呼吸不全患者におけるリスクマネジメントとして、慢性呼吸不全患者の急性増悪は急峻であることを認知し、病状悪化時の早期発見・対応ができる体制をつくる。機器トラブル等予測されることの指導と対応を行う。独居者や介護力不足世帯へ介護保険使用などのアドバイスを行う。

訪問看護師の質向上（疾患・機器の知識、リハビリテーション手技、連携能力、相談技術、態度など）医療費問題（障害医療の地域差）の改善の必要性が考えられた。

在宅ケアにおけるリスクマネジメントは「予防対策」と「事故対策」といわれる。訪問看護師の存在が、在宅療養者のリスクマネジメントとなるように、看護の質を向上し、患者・介護者との信頼関係を築き、信頼できるサービスの提供ができるよう努めたい。

緊急対応のシステム

